HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第二部　部局史.　機器分析センター
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 1151-1152
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28198
Type	bulletin (article)
File Information	hokudai125yr_tsuusetsu_1151.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

機器分析センター

学内共同教育研究施設である機器分析センターは、生体成分を含む有機化合物の構造を解析するための高性能大型分析機器を集中管理して、本学の関連分野の研究者、大学院生、学生が最大限効率的に利用できることを目的として、一九七九（昭和五四）年四月に設置された。従前より専門のオペレータをおいて運営されていた薬学部中央施設の元素分析室、核磁気共鳴分析室、質量分析室およびアミノ酸分析室が機器分析センターに移籍し、それらの業務を引き継ぐかたちでセンターの業務がスタートした。発足当初より全学からの委託分析に応じ、以来、全学の研究者の依頼に応じて迅速に信頼性の高い機器分析データを提供することが当センターの主たる業務になっている。設置の二年後、薬学部南東に隣接して三階建ての機器分析センターの建物が竣工し、引き継いだ分析機器と共に移転して一つの組織として本格的な業務が始まった。その後、プロテインシークエンサーが導入され、ペプチド・蛋白質のアミノ酸配列決定の委託分析が業務に加えられ、現在に至っている。

現在、設立より二十余年が経過したが、依頼検体数は分析種目で多少の増減はあるものの増加傾向を示し、発足当初の年間七〇〇〇件から現在は一万五〇〇〇件を超えるに至っている。この間の分析機器の進歩は驚くべきものがあり、本センターにおいても、薬学部をはじめとする全学の支援により適宜分析機器の更新や新規導入が行われ、各分析項目が最先端研究分野に対応したものに拡大されてきた。分析機器は、その進歩と共に著しく高性能化・大型化することが多く、その場合、専門のオペレーターを配置することで機器の持つ最高機能を維持・発揮させ、効率的な運用を行うことが不可欠である。今後、本機器分析センターの使命がますます重くなる所以である。

（執筆　横沢英良）